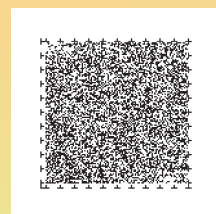


第 5 章

管理運営計画



第5章

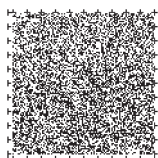
管理運営計画

1 管理運営の基本方針

公の施設としてのあり方、美術館としての特性、「新県立美術館の目指す姿とコンセプト」を踏まえ、以下の基本方針に基づき管理運営を行う。

(1) 公の美術館であることを踏まえ、運営における公共性、透明性を確保するとともに、安心安全で快適な美術活動空間を提供する。

- 来館するのみではなく、どこからでも展示やパフォーマンスを鑑賞できるよう積極的にICTを活用するなど、時間や場所を超え、また年齢や障がいの有無にかかわらず様々な人々が、それぞれの方法で美術館活動に関わることができるよう公共性、公平性を確保した運営を行う。
- 新県立美術館の「目指す姿とコンセプト」「機能と役割」を踏まえ、美術館活動を評価し、活動にフィードバックしていくためのPDCAサイクル（事業運営目標、実施、評価、改善）の仕組みを構築する。評価にあたっては外部有識者で構成した委員会を設置するなど、透明性を確保した運営を行う。
- 常に施設や設備を最善の状態に保つとともに、受付案内や監視、緊急時の避難誘導などが適切に行われるよう運営を行う。

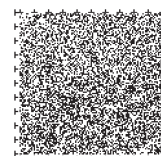


このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです

(2) 未来へ美術資産を確実に残すという美術館の使命を果たすとともに、福岡県・九州の文化芸術の発展に寄与し、芸術の可能性を拡げ、挑戦する美術館であり続ける。

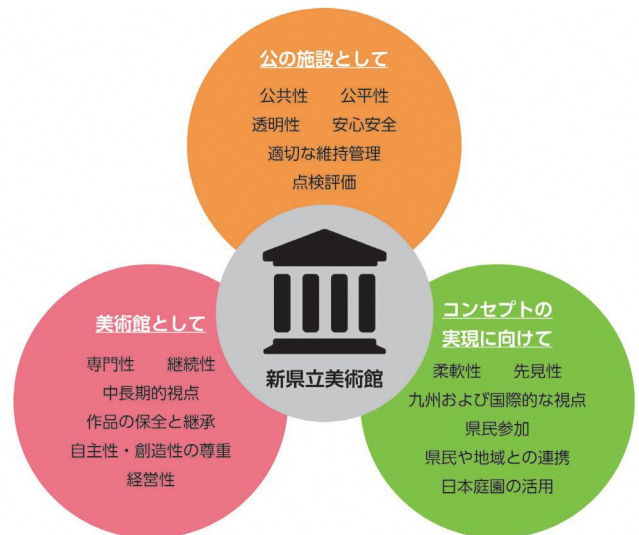
- 最新の保存科学の知見を積極的に取り込み、作品の収蔵や展示にとって最適な環境を維持する。
- 展示や創作、鑑賞に関わる技術についても最先端のものを取り入れるほか、新しい美術の動向に関する情報収集に努めるなど、先見性を持った運営を行う。
- 作品の収集や調査研究、作品の特性に応じた管理や公開に必要な高度な専門性を確保するため、当該知識、経験、技術をもった人材を配置するとともに外部の専門家を積極的に活用する。
- 新しい美術表現、新たな文化芸術の潮流を生み出す拠点となる美術館として、文化芸術活動を行う人の自主性、創造性が尊重される運営を行う。
- 九州全体の広域的な文化芸術の情報発信や、九州各地の美術館との共同の事業などを目指して、県内や九州の美術館とのネットワークを構築する。
- 展覧会の準備・開催、調査研究、作品寄託者との信頼関係の構築などに支障が生じないように、中長期的な視点が確保された運営を行う。
- 観覧料や使用料などを確実に確保し、維持管理や事業展開に必要な経費とのバランスを保ちつつ、独自の財源確保にも努め、安定的、持続的で魅力的なコレクションの形成と運営を行う。

このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです



(3) 県民の美術館活動への参加を促し、地域活性化や観光など幅広い分野にも積極的に取り組むため、様々な主体との連携を進めていく。

- 県民が主体的に参加し、文化芸術活動を実践する取組みを広げていくことで、芸術を通じた県民交流の拠点となるように運営する。
- 美術館の活動の効果が県内各地域に広く波及するように、まちづくりや観光など関連する分野や、学校や県内美術館・博物館などと連携を進める。
- 公園に立地する美術館の特性を活かし、ユニークベニューなど美術館の新たな活用を図るとともに、日本庭園との一体的運営や周辺の文化施設、近隣画廊、周辺地域のまちづくり活動や団体との連携を進める。



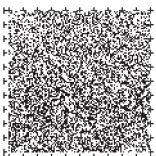
2 組織体制のあり方

(1) 組織と人材について

ア 組織について

美術館の運営方針のもとに総合的な視点で美術館の事業全体の企画立案と広報を担う企画広報部門、調査研究を基にした展覧会の計画や実施、所蔵品の収集や管理、教育普及事業を担う学芸部門、施設の維持管理や経理、美術館の快適な利用に関わる来館者サービスを担う総務部門を設ける。

なお、美術館活動を戦略的、効果的に推進できるよう、展覧会や大規模イベントといったプロジェクトごとに機動的に部門横断的なチームを編成するなど柔軟性・可変性を織り込んだ体制を検討する。



このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです

イ 人材について

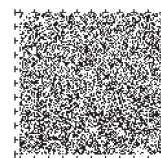
美術館を代表し、館の活動や運営の総合的・全体的な方向性を決定していく館長については、リーダーシップを備え、日本庭園や茶会館との相乗効果を高めるためのプロデューサー的な視点を持ち、さらに新県立美術館の方針や事業について国内外に発信力のある人材が望ましい。

学芸部門については、学術的な研究や調査に基づき展覧会の企画や作品研究を行うキュレーター（学芸員）のほか、収蔵作品について素材や技法などのデータや展示記録を管理するレジストラ（美術作品等履歴管理担当専門職員）や、作品の保存修復や収蔵庫等の状態管理を行うコンサーバー（保存・修復担当専門職員）、美術を通じた多様な学びや体験を提供する教育普及プログラムの企画運営を行うエデュケーター（教育担当専門職員）といった美術館の根幹的な機能を担う専門分野の人材の充実が求められる。

さらに、新県立美術館の特長となる美術資料のアーカイブ機能については、美術資料の保存と管理に関する知見と技能を有するアーキビストを配置するとともに、カタログ・レゾネ（全作品目録）や研究紀要、画集、図録など美術関連図書については、分類や管理に関する知見やレファレンスでの対応、加えて、今後進展していく本のデジタル化にも対応できるアート・ライブラリアン（美術司書）を配置する必要がある。

また、マーケティングや営業に精通し、効果的な広報に関する経験や知見をもった人材や、情報発信、最新機材を必要とする展示のためのICT等に精通した専門人材を活用することが有益である。

基本計画の実現には、美術館運営に携わる人材は最も重要である。新県立美術館に相応しい人材の計画的な確保に努め、長期的な視点で人材育成を行っていく必要がある。



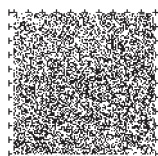
(2) 専門機関

- 新県立美術館の事業や管理運営に対して、専門的・大局的視野から助言を行う外部の有識者からなる美術館運営協議会を設置するとともに、観光やまちづくりなどの新しい動向に関する意見やアイデアを得るための仕組みを取り入れることで、効果的で継続的な美術館運営に向けた改善を図る。
- 新県立美術館の収集方針に即し、優れた美術作品を系統的に収集できるよう、収集予定の作品の評価を行うための専門委員会を設置し、中立的・客観的評価に基づいた作品収集を行う。

3 運営のあり方

新県立美術館に求められる管理運営計画を実現するには、直営、指定管理、コンセッションといった方式が考えられる。

それぞれの方式のメリット、デメリット、効果、導入にあたっての留意点などを慎重に比較検討して、新県立美術館にとってもっとも望ましい方式を決定する必要がある。



このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです

4 現県立美術館の活用方策

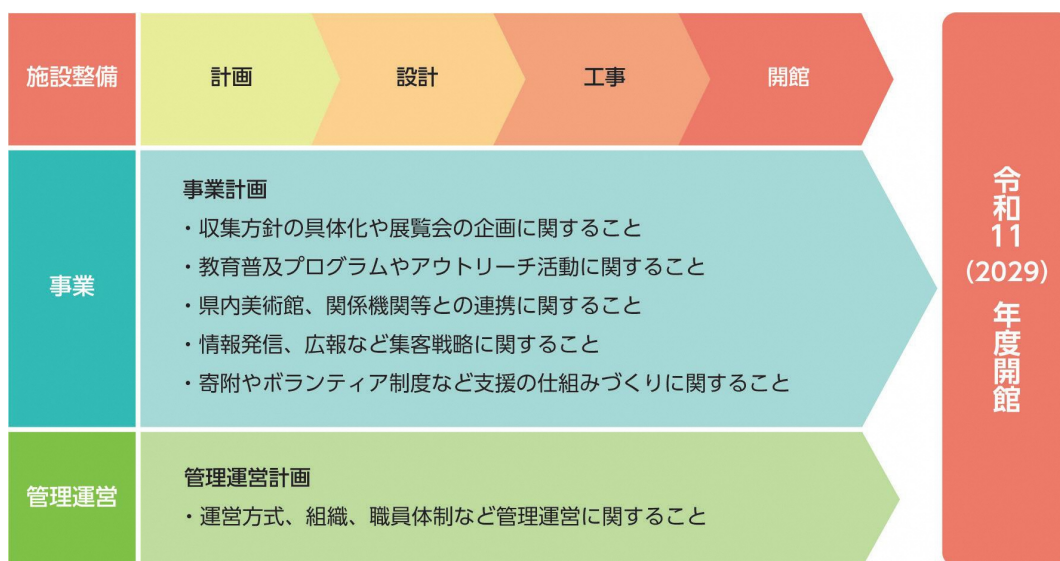
現県立美術館は、福岡県の都心部・天神に位置している。天神地区の有する交通至便で、様々な情報や人材が行き交うメリットを活かし、美術や文化の新しい動きを作り出す場所として、また多様な人々の集まりを作り出す場所として、たとえば、制作アトリエや交流室、ギャラリーなどを備えた若手作家の交流のスペースや、天神地区で働く様々なジャンルの人々を対象にしたワークショップやシンポジウム等の実施など、展示公開や教育普及、連携交流等に関わる機能を有する施設として活用することが考えられる。

現県立美術館の具体的な活用計画については、周辺の須崎公園再整備の情報収集にも努めながら、今後の検討課題とする。

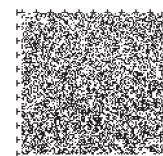
5 今後のスケジュール

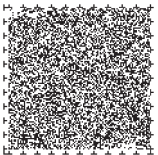
新県立美術館では、令和11(2029)年度の開館を目指して、以下の事項について具体的な準備を進めるとともに、県の推進体制を整備する。

また、進捗状況について県民への情報発信に努めるとともに、県民の声を聞く機会を設ける。



このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです





このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです
